

# つながる力

《No. 24》



## 島々を戦場にするな！ 沖縄を平和発信の場に！

2.26 緊急集会 沖縄県庁前に 1600 人が結集！



2月26日沖縄県庁前で「島々を戦場にするな！ 沖縄を平和発信の場に！ 2.26 緊急集会」が開かれた。県庁前広場をぎっしりと埋め尽くすほどの人たちが集まった。宮古島、石垣島、与那国島等からも大勢の人が参加した。従来のような組織の呼びかけではない。沖縄を戦場にしないために、世代・保革を超えて結集しようという新しい試みが始まったのだ。（23.2.26 付北上田毅さんブログより）

### 《 目 次 》

《沖縄からの便り その18》 刻々と迫る「再びの沖縄戦」…「捨て石」を許さない!!・浦島悦子	2~3
《沖縄県うるま市》 うるまからの緊急報告 陸自勝連分地前で集会	宮城英和 4~5
《沖縄県本部町》 第二回塩川ディを終えて	仲宗根須磨子 6
2023.3.31 沖縄タイムス「論壇」 住民の命 守る気がない国	原田みき子 7
《沖縄県糸満市》 沖縄戦跡国定公園内の石灰岩採掘の問題	崎山正美 8
《沖縄県浦添市》 沖縄から「私」が見える	立田卓也 9
《香川県》 1.14 三上智恵講演会 高松で開催	名出真一 10
《東京都》 「建白書」から10年	毛利孝雄 11
《鹿児島県》 鹿児島県内の日米軍事関連に反対する取組み	磨島昭広 12
高井弘之講演会から - 1 大軍拡と大増税は何のためか	中野愛子 14
- 2 1.28 横浜講演会を開催して	中西綾子 15
新「生物多様性国家戦略」に照らせば辺野古新基地建設埋立ては中止しかない	湯浅一郎 16~17
「次期生物多様性国家戦略(案)」に対する意見	18~19
インフォメーション ・土砂全協第10回定期総会 in 沖縄にご参加を	20

写真提供 北上田毅 宮城英和 崎山正美 松本宣崇 毛利孝雄 磨島昭広 中西綾子

沖縄からの便り  
《連載 No.18》  
いちやりば  
ちよーでー

## 刻々と迫る「再びの沖縄戦」・・・ 「捨て石」を許さない!!

ヘリ基地いらない二見以北十区の会 浦島悦子

### ◆「島々を戦場にするな!!」緊急集会の成功から、その先へ



2月26日(日)午後、「島々を戦場にするな!沖縄を平和発信の場に!」緊急集会が県庁前県民広場を埋めた1600人(目標の1000人を大きく超えた)

の熱気の中で開催された。「台湾有事」を口実に、急激に進む琉球弧のミサイル基地化・軍事要塞化＝「第二の沖縄戦」に危機感を募らせる県内の市民団体や個人が昨年末から議論を積み重ね、開催に漕ぎつけた。

議論の中で、シニア世代の運動スタイルに対する若者世代の違和感が率直に出され、一時険悪ムードも漂ったが、それを乗り越え、若者たちから提案された『争うよりも愛しなさい』が集会全体のキャッチコピーになった。

また、今まさに自衛隊配備や建設が進行中の与那国・宮古・石垣の島々と沖縄島との危機意識の落差も鮮明になったが、話し合う中で理解を深め、世代や地域の違いを認め合いつつ共同作業ができたことは大きな成果だ。会合を重ねるごとに参加団体も増え、70団体を超えた。

夏のような陽射しが降り注ぐ中、右翼の街宣車の妨害をものともせず、ミニライブや各島々・地域からのトークが展開された。集会実行委員長を務めたガマフヤーの具志堅隆松さんは「ものが言えなくなると戦争になるのは経験済みだ。今はまだ、かろうじてものが言える。声を上げていこう!」と呼び掛けた。

「私たち沖縄県民は平和を愛する民です」から始まる集会宣言文は、政府に対して二度と戦争を引き起こさないことを求めるとともに、全国の自治体に対し、中国との平和交流の強化を求めた。

コロナ禍以来、久方ぶりのデモ行進が那覇の市街地を練り歩いた。

集会後に開かれた会合で、今回は規模を大きくして5000人集会、さらに数万人の集会をめざし、一大県民運動として展開していく方向が確認された。その中心を若者たちが担ってほしいという希望も出された。

しかしながら一方で、それが間に合わないと感じるほど、戦争への動きは待たない。

与那国・宮古に続き、自衛隊が「部隊配備の空白地帯の最後のピースを埋める」という石垣駐屯地の開設(3月16日)に向けて5日、ミサイル発射機を含む車両約200台、開設後の18日にはミサイルの弾薬が、公道を使用して搬入された。「石垣島に軍事基地をつくらせない市民連絡会」など市民らは集会やデモを行い、のぼりやプラカードで猛抗議したが、県警機動隊に強制排除された。

与那国島では、糸数健一町長が町民避難の条例化を目指しているが、島から島民を追い出して自衛隊占有基地化する動きではないかと懸念されている。

沖縄島でも、うるま市の自衛隊分屯地へのミサイル配備、沖縄市の自衛隊弾薬庫建設、そして米軍辺野古弾薬庫の増設&新ゲート建設工事と目白押し。住民を巻き込んだ「持久戦」の準備が着々と進む。

「軍隊は住民を守らない」は沖縄戦の教訓だ。自衛隊幹部も「有事の際の住民保護は自衛隊の任務ではなく、自治体の任務だ」とはっきり言った。与那国町や那覇市が行った「国民保護訓練」＝ミサイル攻撃からの避難訓練は、公民館への避難、机の下に隠れる、両手で頭を覆う一など、台風や地

震等の自然災害ではあるまいし、あまりのバカらしさに泣きたくなるようなものだった。政府も自治体も、こんな訓練をする時間と費用を、「有事」を起こさない対話や外交に注いでほしい。

## ◆那覇地裁が陳述書を「検閲」・・・表現の自由踏みこむ

戦争への道が敷きならされつつあると思わせる出来事が、司法の場でも起こった。

私たち辺野古・大浦湾沿岸住民ら 20 人が、玉城デニー知事の設計変更不承認を取り消した国土交通大臣の裁決は違法だと、その取り消しを求めて提訴した抗告訴訟の第 3 回口頭弁論が那覇地裁で開かれる前日(3 月 22 日)のことだった。当日は私が原告意見陳述をやる予定だったが、裁判所に事前提出を求められたその内容について、「穏当でない」表現があるので、このままでは意見陳述を許可できないと、代理人弁護士に連絡があったという。啞然とした。弁護団も「前代未聞だ!」と言った。

私は今回、私たち地元住民が 25 年以上も翻弄されてきた辺野古新基地建設問題について、生物多様性の観点から意見陳述した。土砂協顧問の湯浅一郎さんのアドバイスや加筆も頂いて陳述書を書いた。人間活動の活発化によって急速に劣化する地球環境への危機感、このまま続ければ人類の生存が危うくなるという危機感を世界の国々が共有し、1992 年に生物多様性条約を結んだ。日本政府も批准しており、現在、環境省は、第 6 次生物多様性国家戦略の策定作業を進めている。日本政府は率先して生物多様性を守る義務を負っているわけだが、にもかかわらず、それと全く逆に、「奇跡の海」と言われるほどの生物多様性を残している辺野古・大浦湾を、国民の血税を使って破壊し続けている。私はこれを「国家犯罪」だと書いた。

また、自然を壊すことは、私たちだけでなく、これから生きていく次世代の暮らしや文化を破壊する「犯罪行為」であり、国のこの「犯罪行為」について裁判所が吟味せず「原告適格なし」と判断するならば、後世の人々から破壊の片棒を担いだと「断罪」されるだろう、と書いた。裁判所(裁判長)がク

これはもちろん、沖縄や琉球弧だけの問題ではない。米国は日本列島全体を中国の楯として使うつもりだ。多くの日本国民が事態を見極め「ものを言う」ことが緊急に求められている。

レームをつけてきたのは、これら「罪」という文字が入った 4 か所だ。

書き換えを拒否して意見陳述しないという選択もあったが、弁護団と相談し、やはり陳述はやろう、そして、法廷で抗議しようということになった。当日、私は「極めて不本意です」と前置きしたうえで、犯罪を「違法行為」に、「断罪される」を「責任を問われる」と書き換えて陳述した。弁護団は、これまでの慣例と異なり前回口頭弁論から陳述書の事前提出を求めるようになったのはなぜかを問い、抗議したが、福渡裕貴裁判長は「訴訟指揮の範囲」と居直った。実はこの福渡(ふくわたり)裁判長、名前とは真逆に、私たちの前の裁判＝埋め立て承認撤回を巡る住民の訴訟で「原告適格なし」として却下した張本人なのだ!

裁判所は本来、原告・被告双方の率直な言い分を聞いて判断する中立的な立場のはずだ。それが、なぜ「検閲」や「言葉刈り」まがいのことをするのか理解しがたい。被告・国の立場を忖度したのだとすれば、自ら司法の独立を投げ捨てたことになる。あるいは、「罪」であるかないかは裁判所が決めるので、下々は口出しするな、ということだろうか? それはそれで「主権在民」に反し、表現の自由を踏みこむ憲法違反だ。裁判所と裁判長に猛省を求めたい。原告・弁護団では今後の対応を検討中だ。(23. 4. 5)



# 陸自勝連分屯地前で集会

ミサイル配備から命を守るうるま市民の会事務局長 宮城英和



2023. 3. 21 陸上自衛隊勝連分屯地前で

昨年12月16日に安保関連3文書が閣議決定され、敵基地攻撃能力保有を明確にした。日本は「戦争のできる国」から「戦争をする国」になった。奄美大島、宮古島と続き、石垣島にも自衛隊基地が創設され地対空そして地対艦誘導弾が配備された。与那国島にもミサイル配備が予定されている。23年度をめどに沖縄島のうるま市にある陸自勝連分屯地にも地対艦ミサイル統括部隊が創設される。

11回目のミサイル要塞化の危機・写真展を終えるとすぐに、3月21日、陸自勝連分屯地のゲート前で集会を行った。現場では新隊舎建築工事と車両整備場新設建設工事が行われていた。ダンプ車両が時折私たちの前を通過して行く。若い自衛隊員2人が銃を携えて私たちを見つめている。以前は銃を持っていなかったはず

なのに・・・。

勝連分屯地は祖国復帰の翌年1973年に米軍基地の一部が自衛隊へと移管されてできた基地だ。1979年には沖縄唯一の射撃訓練場が造られた。分屯地の近くには学校が5つもあり、保育園や住宅地が広がっている。そして10キロほど離れた平安座島には石油備蓄のタンクが42基もある。攻撃されたらひとたまりもない。一面火の海だ。

集会では保安林伐採の問題について沖縄平和市民連絡会の北上田毅氏によって説明がなされた。北上田氏の協力がなければこの違法行為に気づくことはできなかつたろう。

この区域は1912年に保安林に指定され新しい森林法によって1975年に保安林に指定されている。しかし、現在、分屯地には保安林は

伐採されて存在しない。森林法で保安林の伐採には知事の承認が必要になっている。しかし伐採の許可申請もなされていない。誰が保安林を許可なく地形変更したか。防衛局によると移管された時にはすでに保安林はなかったと自らの関与を否定している。これから県の立ち入り調査が行われることになる。ただ言えることは日本政府が復帰の時点で保安林を原状回復する義務があったのではないかということだ。伐採は誰によってなされたかはいずれはっきりするだろうが法令を無視することはできない。とにもかくにも国は原状を回復することから始めなければならない。そのためには現在行われている工事は中止すべきではないのか。この保安林の問題はこれからミサイル配備阻止行動の大きなカギになるのではないかと思われる。

2022年11月に発足した「ミサイル配備

から命を守るうるま市民の会」が防衛局に住民説明会開催の要請を行ったが防衛局の回答は「現時点では説明会を開く予定はない」と無責任な回答であった。石垣島ではミサイルが配備されてから住民説明会が開かれるといううちぐはぐなことが起こったが、配備されてからでは意味がない。うるま市長も「ミサイル配備については国の専管事項で市長として物言う立場にない」と無責任な答弁を繰り返している。市長は率先して地域の住民の命と生活を守る責務がある。集会では市民10人によるリレートークも行われ、「うるま市長を糾弾すべし」の怒りの声が分屯地の空に響き渡った。105人が集まり、ミサイル配備阻止の闘いを諦めることなく闘い抜くことを再度確認しあった。(23.4.6)



みかみちえ  
三上智恵監督 最新作

## 「沖縄、再び戦場へ」 スピンオフ

《三上智恵監督コメント（一部抜粋）》

昨年未の安保三文書で明らかになったのは、日本が敵基地攻撃や先制攻撃も可能な軍事国家になったことだけではありません。日米政府の言う抑止力とは「南西諸島にミサイルを並べ、最悪の場合報復攻撃の戦場になるもやむなし」という南西諸島の犠牲を覚悟したものであるという本音も暴露されました。

いま制作中の新作映画は、平和を求めて戦う沖縄の最前線を描いた2017年の『標的の島 風かたか』の続編にあたります。2017年～2023年の戦争に向かって突き進む怒涛の日々が描かれることとなります。映画の完成を待つこの期

間にも、刻々と変わっていく状況を共有するため、この度45分程のスピンオフ映像を希望者に無償で提供し、危機感を共有していただきたいと思います。思うに至りました。

(2023年4月18日、東京都内で開催されたスピンオフ上映会の案内より転載)



# 「第2回塩川デイ」を終えて

本部町島ぐるみ会議共同代表 仲宗根須磨子

2023年2月21日、22日の両日、予定していた塩川デイ。1日目は風と波の影響で塩川港からの搬出は無し。安和へ移動して行動する。2日目は天気も良く塩川港へ。

両日の結果を表にしてみる。

[1日目 安和]		
	参加人数	ダンプ台数
午前	85名	214台
午後	65名	342台
計	150名	556台

[2日目 塩川]		
	参加人数	ダンプ台数
午前	108名	173台
午後	70名	158台
計	178名	331台

通常、少ない人数で抗議行動をしている時は、安和では1日900台、塩川では700台の搬入台数がある。今回も減らすことができたが、塩川港においては、機動隊の市民に対する規制の動きが目立った。市民を道路の端に追いやり、牛歩を制止して、トラックダンプをどんどん通す行為が、頻繁に見られた。

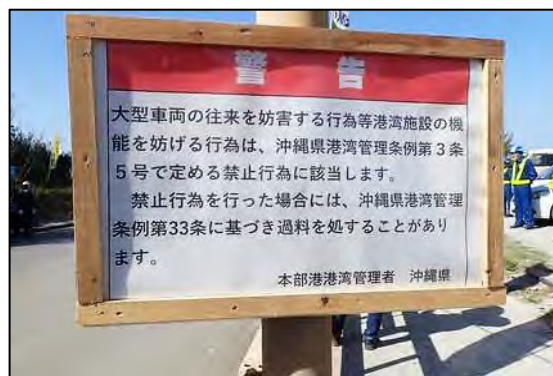


今回の塩川デイにおいても、新たな問題が発生。

①1日目、安和棧橋ゲート前に、機動隊がいきなり

フェンスを設置した。「安全のためだ」と言っていたが、牛歩のスペースをわずか幅1メートルに縮め、ダンプをスムーズに通すためであり、かえって市民の側に危険を呼び込む行為である。

②塩川港ゲートに「警告板」が設置された。抗議行動をする市民に対して過料を科す内容であり、言語道断。(すぐにこの看板を撤去するように、北部土木事務所と交渉中)



③塩川港入口にある、ゆるやかなスロープの歩道に2箇所、水道管がむき出しに設置されている。多くの人がつまずいているが、この日はついに、女性が転び膝を擦りむき、頭をアスファルトに強打、負傷した。(後日の北部土木事務所との交渉後、この水道管は撤去されていた。)

④午後3時頃、塩川港内で北部土木事務所職員が市民に向けてビデオ撮影を始めた。

(北部土木事務所は「なにが起ころか分からないので」という説明をしていたが、肖像権の侵害であり、市民を萎縮させる行為である)

塩川港においては、他にもさまざまな問題が山積しているが、このような圧力にも負けず、正々堂々と牛歩で抗議行動を終日展開していった参加者の皆さん、すべての関係者の方々に深くお礼を申し上げます。ますますきびしい状況になってくることが予想されますが、次回もあきらめことなく整然とがんばってまいりましょう！(23.4.5)

本部町島ぐるみ会議の原田みき子さんの投稿が、三月三十一日付沖縄タイムスに掲載されました。



# 論壇

## 住民の命守る気がない国

今月5日、石垣島に約200台の軍事車両とともにミサイル発射機が運び込まれた。近年米兵は単身で来るし、与那国島の自衛隊員は家族を県外へ帰したと聞く。あらゆる状況が戦争に近いことを語っている。



原田みき子

### 先島にミサイル発射機

風や津波から避難しているようだった。市町村レベルではあれが限界ではないだろうか。そもそも国は、戦争準備をしておいて、国民の命を守る気が全くないことが判明し、あきれて言葉がない。とつぐに見限つてはいたが、現政権がここまで無責任だとは…。もはや国の体をなしていない。

注した企業は、自民党に3300万円を寄付したそうだが、分かりやすい。戦争準備の軍需品を受注した他の9社と合わせて自民党には1億6620万円の寄付が集まったという。戦争で肥え太るのは自民党、殺されていくのは沖縄県民なのか。

私はこれまで辺野古の問題は「日本の恥」と言ってきた。しかし今は「日本こそが恥」と思う。平和を求める世界中の人が高く評価する憲法を上手に生かして、外交努力をなぜ重ねないのか。沖縄の命を守る気が全くないように、外交努力をする気も全くないようだ。これほど劣化した政府をなぜ許すのか。自民党と連立を組む公明党の皆さんにも聞いてみたい。「平和の党」の看板が泣いている。うまく使われるだけでは、自滅するしかないだろう。

78年前と同じように捨て石とされそうなの、私たちの取るべき道を見つけない。ミサイル戦争なのだから、一瞬のうちに廃虚と化し、全滅もあり得るだろう。韓国では国民の3倍分のシェルターが用意されているという。地下鉄の駅など、利用されるそうだ。しかし、沖縄には一つもない。これから造るにしても時間がかかる。一番可能性が高いのは、全ての軍事基地をクローズすることだ。攻撃しなければされない。幸い、中国は一度も他国に侵攻したことはないのだ。沖縄とは格別に親しい関係にもあった。

(本部町、73歳)

## 沖縄戦跡国定公園内の石灰岩採掘の問題点

糸満市 崎山正美

糸満市米須の石灰岩採掘と遺骨の問題に関する公害等調整委員会の和解案は、「工事の際に遺骨が発見されたときは、事業者は、その周辺半径5mの範囲で、工事を2週間中止し、戦没者遺骨収集情報センター等による調査及び遺骨の収集を認める」というものである。それを沖縄県は受け入れてしまった。また、糸満市はこの地が糸満市風景づくり条例により景観形成重点地区に指定されているにも関わらず、適格通知を出している。この結果は、戦跡国定公園のみならず将来的に石灰岩地域の環境と暮らしに大きな禍根を残すものと私は危惧している。ここでは石灰岩地域の自然と利用の歴史を振り返りつつその土地利用の在り方について述べておきたい。

沖縄戦跡国定公園区域には戦跡も含めて遙か昔の遺構もあり、自然と人との関りが密である。列举すると、〈ガマには古代人の居住跡があり、港川人などの人骨も発見されている〉、〈按司時代のグスク（祭祀の場、砦など）が立地する〉、〈人々は丘陵地を聖なる空間として崇めてきた〉、〈石灰岩丘陵は地域の風景に秩序を与える骨格となっている〉、〈沖縄戦で激しい戦闘の場となり、戦没者の遺骨も未だ含まれている〉、〈無数のガマがあり、そこには多くの慰霊塔が建立されている〉、〈石灰岩台地は地下ダムの水源涵養域である〉

各慰霊塔には、戦争犠牲者への哀悼の言葉が述べられているが、それは、もう一つの事実を目をつぶっていると真栄平の南北の塔の構内に設置された小さな墓碑を見て私は痛切に感じた。平成〇年没と刻まれた墓碑がある。その裏には、「この戦友の眠る地に私も共に眠る」という意味の記述がある。生き残った事への辛さを死ぬまで持ち続けた人の心情が見える。同じような碑を摩文仁の南冥の塔、魂魄の塔の近くでも見た。多くの人たち



写真 2020年12月23日 石灰岩採掘のため樹木が伐採された丘陵の前で祈る宗教者会議のメンバー

にとって石灰岩丘陵やガマは、地形そのものが鎮魂の地なのである。

大度に重砲兵の碑というのがある。戦後50年にして建立された碑である。当初は石灰岩丘陵のなだらかな南斜面にあった。ところが数年前に周りの石灰岩が採掘され慰霊碑が宙に浮いたようになってしまった。これは戦跡公園内の慰霊碑の将来を暗示しているものであった。それからしばらくして山城の鉱山計画と遺骨の問題が発覚した。これを機に石灰岩採掘後の環境復元の問題もクローズアップされてきた。

沖縄戦跡国定公園及びこの地の居住環境の保全については、これまでの制度対応のみでは十分ではない。それについては鉱業法、自然公園法、森林法、農地法、景観づくり条例等の総合的視点からの再検討が必要である。石灰岩台地は先にも述べたように歴史のタイムカプセルであるとともに平和を考え希求する場でもある。それこそ「負の世界遺産」ともなるべき場所である。沖縄県は安易に公害等調整委員会の調停案を受け入れて問題を解決するのではなく、また、現行の手続き論に終始するのでもなく、沖縄の歴史を背負って独自の案を早急に作るべきである。今こそ沖縄県民の知性が求められている。(23.4.6)



# 沖縄から「私」が見える

## ～ 愛媛から沖縄・浦添に移住して ～

人形劇団主宰 立田卓也

皆さんのこれまでの働きの先に、いま私が沖縄に住まわせてもらって、平和運動を沖縄の方々と共にさせてもらっています。

「艦砲射撃の食い残し」と自評する沖縄の人たちと共に、加害者的立場にある「ヤマト（本土、他府県）」で生きてきた私が、辺野古新基地建設抗議行動に加わらせてもらっています。「加害者性」を意識させられるのは祖父の戦争体験からです。

戦時中徴兵させられた祖父は南方で負傷し捕虜となり、戦後帰還したその時にはもう墓が建てられていたと聞いています。その後理容師になった祖父は、同じ高知の理容師が戦争犯罪で裁かれた姿を描いたドラマ『私は貝になりたい』にいたく共感していたそうです。

私自身には、戦時中祖父が（恐らく）体験したであろう捕虜を殺したり、戦場で誰かを殺したりといった直接的な加害はありません。でも、生きて帰れたということは、私の中にもその加害性は、歴史と共に残されていると言えます。そして今この私の目の前で見ている沖縄・琉球弧のめまぐるしい軍備（軍事要塞）化と地続きであることが、現在の私の加害性と言えるでしょう。

しかし、原発問題同様、この私自身の加害者性と長く向き合えないできたことを告白せねばなりません。そんな私のような日本人を沖縄では「ヤマトヒジュール」（冷たいヤマトの人間）というウチナーグチで表現されていたことを知りました。また、薩摩の侵攻以降、薩摩人のことをヤマトンチュと呼び、薩摩以北に住む人たちは「ウフヤマトンチュ」（ウフヤッサ＝おおらかさ・やさしさ、優

しいヤマトの人間）と、期待を込めて呼んでいたそうです。でも私たちはウフヤッサではなかったことが、今の状況を許してきました。それら「怒り」の言葉を、沖縄の方々から聞かせてもらう機会があり、同席していたヤマトンチュたちは、ただただ小さくなるばかりでした。

このことを、「辺野古バス」（那覇から月～金毎日運行、道中は参加者の平和への思いを語りあう学びの場となっている）車内で話させてもらったところ、現在の辺野古の闘いを10年以上も続けて参加されているTさんからこう言われました。「もう小さくならず、堂々と牛歩せよ」。

土砂を搬入するトラックの運転手も、私たちの抗議行動を排除する県警も、沖縄の労働者、若者です。同じ沖縄の人たち同士が、日米の政治によって、またヤマトの無関心によって、沖縄の自然を喰い物にして、この地で争わさせられている。その上空を米軍軍用機が飛ぶのです。そこに今、「ヤマトンチュ」たちはどんな顔をしてやって来ているのか。

私たちは自分たちの姿を「沖縄」から見、また、「未来」から見つめながら、闘い続けましょう。

（23.4.6 浦添市在住、

ノーモア沖縄戦・えひめの会・会員）



# 1.14 三上智恵さん講演会、高松で開催

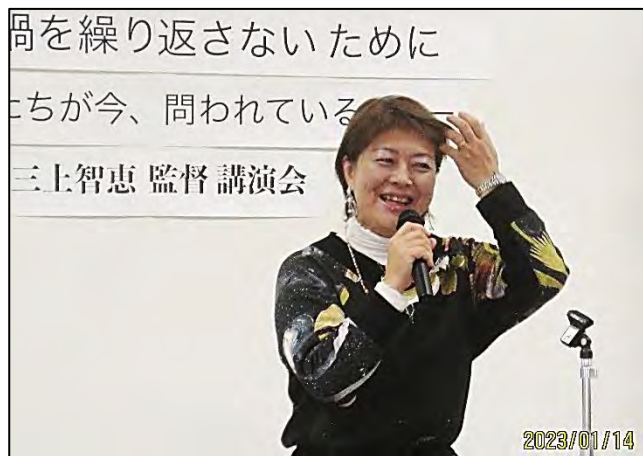
辺野古に基地をつくらせない香川の会 名出真一



2023年1月14日高松で映画監督の三上智恵さんの講演会を行いました非常に内容の濃い講演会でした。簡単に内容を報告します。

宮古島、石垣、奄美、勝連にミサイル部隊が配備される。

中国が近づいたら撃つため。与那国町長も石垣市長も宮古島市長も自衛隊は受け入れるが、米軍は受け入れないと言っていた。しかし、自衛隊がくれば、訓練として米軍も入ってきている。島々の空港や港を整備するための予算が組まれる。軍事利用することが条件になる。離島にとって空港や港は生命線。整備してくれるのであれば断れない。



自衛隊の訓練に協力すれば自治体に交付金が出る。米軍はいざとなればなくなる。自衛隊だけで戦うことが前提になっている。

弾薬庫は沖縄を守るためではない。島々を占領された時に反撃し、上陸するために島々に打ち込むための弾薬庫。南西諸島がとられても、本土が守れば「抑止力」である。島嶼防衛と言うの

は、一度占領させなければできない。これは軍事の常識となっている。

日々起こる米軍による事故・事件。アメリカが起こしている。しかし問題はアメリカ軍なのか？日本が反対運動を踏み躪った。日本政府が考える「安心・安全」のためには、沖縄の住民の意志や人権は国防の名の下に奪ってもいいと思っていることこそが問題。

今も続いているウクライナでの戦争は西側と旧ソ連、中国との対立の最前線にされている。そのため止める事ができない。台湾有事も同じように利用される。日本の戦争ではなく、日本の意思でどうにもならなくなる。

沖縄戦では多くの住民が日本兵に殺された。日本語を話さなかったと言うだけで、わかっているだけでも400~500人が殺されている。太田元知事の調査では千人とも言われている。沖縄の言葉を話ただけでこんなに殺されたはずがない。日本軍にとって沖縄住民は信用できない存在だった。米軍に捕まれば軍がどこにいるか話すかもしれない。情報保全隊が作られて殺していった。

沖縄戦の前に子供を逃がしているが、決して命を守ろうとしたわけではない。戦闘や労働力として役に立たないから逃がした。そして本土から10万人の兵士が入ってくるために、食料を確保するために10万人分減らす必要があっただけ。住民は労働力として使われる。これは今も同じ。逃げられるわけではない。

以上のような内容でした。

沖縄を再び戦場にしないために。私たちが加害者にならないために軍備拡大、基地拡大には断固として反対していきましょう！ (23.4.7)

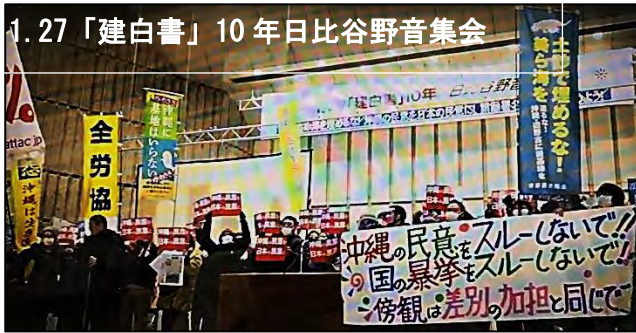
# 「建白書」から 10 年

## この 10 年を共有し、辺野古・南西諸島の「戦場化」に抗う！

辺野古土砂搬出反対！首都圏グループ 毛利孝雄

### ■10 年前と

同じ日・同じ場所・同じデモコースを辿る



1月27日、10年前のこの日、オスプレイの配備撤回、普天間基地の閉鎖・撤去、県内移設断念等を求める「建白書」を政府に提出するため、沖縄の41全市町村の首長らがそろって上京、日比谷野音集会在持たれた。翌28日には安倍首相（当時）に「建白書」が手渡された。他の都道府県で、これほどの意思表示があっただろうか。「沖縄が日本に甘えているのでしょうか。それとも日本が沖縄に甘えているのでしょうか！」翁長雄志語録に残る名言は、この時のもの。

集会後の銀座デモでは沿道の日丸グループから、「日本から出て行け」などの激しいヘイトスピーチが浴びせられた。デモの先頭にいた翁長那覇市長（当時）は、このときの印象を「何よりショックだったのは、道行く人びとの無関心ぶりだった」と語り、その後の県知事選立候補、「オール沖縄」の成立へとつながっていくことになる。

あれから10年。何が変わり何が変わらなかったのか。10年前と同じ日、同じ場所で、同じデモコースを辿ることで考えたい。そんな思いが企画のスタートだった。

### ■ 10年間の不条理を共有する

27日当日、夕刻からミゾレ混じりの寒さの中、駆け付けた800名の参加者が、登壇者一人ひとりの切実かつ誠意ある発言に集中していた。

紙幅の関係で、リレートークの最後、宜野湾市緑が

丘保育園父母会元副会長の明有希子さんの発言のみを紹介する。

「昨年、関東に引っ越してきて、公園で遊ぶ娘が『空に米軍機が飛ばないね。静かでインチキ』と言った。こちらでは米軍機をまだ一度も見ることがない。小学生でも分かる基地70%を押し付ける差別。私の祖父は沖縄戦で兵士。父は復帰前に県外で過ごした大学時代、沖縄から来たという偏見にあい、私と娘は米軍機からの部品落下事故の当事者になった。米軍基地被害は4世代にわたり、ウチナンチュを縛り付けている。将来、大人になった娘に違う風景を見せたい。『あの頃見た沖縄とは違うね』と言わせたい。そのために声を上げます」。

### ■沖縄民衆運動の力が、

#### 全国の心ある人たちをつないできた

政府は「辺野古が唯一の選択肢」を繰り返し、工事を強行している。しかし、声を上げ続けていなければ、今以上に工事は進んでいただろうし、「軟弱地盤」「南部遺骨土砂」問題すら明らかにはならなかっただろう。その思いを強くするのは、1・27集会に115の団体と102名の個人から賛同が寄せられたことである。その中には、この10年の中で新たに生まれた団体も多く含まれている。「土砂全協」も「首都圏グループ」も、その中のひとつだ。

この10年、普天間・高江・辺野古へと連続する闘いは、その現場にふれることを通し連帯する組織と個人を、間違いなく全国に生み出してきたと思う。

ウクライナ戦争を奇貨とした政府の「大軍拡」は、南西諸島への集中的自衛隊配備をはじめに、全国の自衛隊基地の機能拡大と高度化、さらに日米共同使用が計画され進められようとしている。米軍による事件・事故、地方自治の破壊とそれに抗う民衆の運動、沖縄が経験してきた10年を、学び尽くすことで、次の10年を展望できるのではないか。（2023.4.3）

# 鹿児島県内の日米軍事関連に反対する取組み

鹿児島県に米軍はいらない県民の会 磨島昭広

政府・防衛省は「中国脅威論や台湾（半導体）有事から国民を守る」と称し、沖縄では普天間基地移転に伴う辺野古新基地建設、与那国島の陸上自衛隊の警備部隊と電子部隊配備、石垣島、宮古島自衛隊基地を建設し、ミサイル部隊配備に伴う弾薬庫建設を進めている。

福岡では築城基地の滑走路延長と弾薬庫建設。大分では日出生台の実弾演習訓練。長崎では水陸起動団の配備と訓練。佐賀では欠陥機オスプレイの配備計画と自衛隊基地建設。宮崎では新田原基地の滑走路延長及び弾薬庫建設とF35B戦闘機の配備。鹿児島では鹿屋の米軍KC130空中給油機訓練、間期限付きの無人機部隊配備、奄美大島のミサイル基地建設及び弾薬庫建設、そして23年1月12日に始まった馬毛島FCLP基地建設。



馬毛島全景 ウィキペディアより

防衛省は、19年11月に馬毛島の買収以降、外堀を埋めるかのように、外周道路や基地建設に関する調査・検討・設計などの工事入札公告を水面下で進め既成事実を作り上げてきた。また西之表漁協に対し、基地整備に伴う馬毛島東岸で予定される港湾施設や仮設棧橋の工事の補償金・総額22億円を提示するなど、米軍FCLP訓練移転に伴う馬毛島基地建設は本体工事が始まり、日米合同軍事演習と島嶼攻撃に備える拠点として、地元

の理解もなく頭越しに決め、基地建設が現実とな



馬毛島から海上タクシーで寄港



送迎バスで西之表市へ

そのため、西之表市内に500人から800人ともいわれる工事関係者の宿泊・滞在に伴う生活ゴミの増加や水道・電気の過剰利用などで起きる断水や停電など、市民生活に必要なインフラに悪影響を及ぼし、他県の車の増加による渋滞や事故の発生が予想されている。また、工事関係の賃金高騰を受け、現職を捨て再就職する若者が多く種子島全島で人手不足傾向がみられ、関係者向け住宅にも変化があり家賃高騰も深刻で、市民生活を直撃している。さらに観光客は宿泊やレンタカーなどが利用できず、巨大な基地建設バブルに、西之表の行政も市民も「こんなはずじゃなかった」と、悲鳴を上げている。 (23.4.9)

# 8平方キロの無人島・馬毛島、自衛隊基地の建設開始… 2本の滑走路や火薬庫を整備

読売新聞WEB 2023/01/12 21:17 より

防衛省は12日、鹿児島県西之表市・馬毛島で、米空母艦載機の離着陸訓練（FCLP）移転計画に伴う自衛隊基地の建設に着工した。本体工事の工期は4年程度で、2本の滑走路や管制塔、火薬庫などを整備する。

馬毛島は種子島の西約12キロに浮かぶ約8平方キロの無人島。2011年の日米安全保障協議委員会（2+2）の共同文書で、硫黄島（東京都）で実施されているFCLPの移転候補地とされた。南西諸島防衛に向けた自衛隊の訓練・活動拠点としても活用する計画で、水陸両用部隊「水陸機動団」や輸送機オスプレイの訓練が想定されている。



【右写真】 重機や資材などが運ばれ、自衛隊基地の本体工事が始まった馬毛島（12日午後、鹿児島県西之表市で、読売機から）＝佐伯文人撮影

11日の2+2の共同発表文書でも、馬毛島の基地建設については「整備の進展及び将来の見通しを歓迎」と明記された。

## 【馬毛島】旧石器時代のものとみられる遺跡の発掘調査 鹿児島県教委が防衛省に勧告

鹿児島テレビ放送WEB 2023年3月30日 より

鹿児島県教委は30日、防衛省に対し、アメリカ軍の訓練移転と自衛隊基地の建設が進む西之表市の馬毛島で発見された遺跡の発掘調査を行うよう勧告した。

馬毛島で見つかった旧石器時代のものとみられる遺跡は、防衛省が計画する基地区域内にあり、滑走路や駐機場の整備予定地に隣接している。

鹿児島県教委によると、2月から実施していた現地調査で、旧石器時代のものとみられる遺物が新たに一定数見つかった。

県教委は、約6500㎡で文化財保護法に基づき、着工前に発掘調査を実施するよう30日、防衛省に勧告した。具体的な発掘調査の期間や規模については今後、防衛省と県教委で協議する予定と。



文化財保護法により、遺跡の発掘調査が  
終わるまで、工事を始められない！  
これが建設業界の常識である。  
住宅建築現場で発見された遺跡でも、  
ずさんな遺跡調査は、決して許されない！  
防衛省は、馬毛島基地建設を速めるため、  
いい加減な調査をしてはならない！

# 大軍拡と大増税は何のためか

## ～ 琉球孤と日本列島を戦場にしないために ～

### 1.22 高井弘之氏リモート講演会に参加して

今治市在住 中野愛子

\*\*\*\*\*

私は、愛媛県今治市で1年半ほど前から、月に一度、高井弘之さんを講師にお招きし、「憲法&歴史カフェ」という学習会をしているグループの世話役をさせていただいております。その様なご縁で、今回、表題の講演会に参加させていただき、僭越ながら、寄稿させていただくこととなりました。

当日は60名ほどの方が参加されていたとのご報告を聞きました。

画面の向こう側での学習空間は個々にあるのに、ネットという文明の利器で60名の平和の想いが繋がるができることに感動しています。

私が今回の講演会で、とても印象に残っていることは、「日本が変われば、この戦争の危機は止められる！」と高井さんが力強く言い切られていた事です。

これまでも、高井さんから琉球孤の軍拡や中国脅威論の問題についてのお話を何度もお聞きする機会があったのですが、今回ほど強く言い切られていたのを、私は初めて聞きました。

それほど、高井さんの中にある2023年始まりの決意のような気迫を感じました。

では、どうすれば、「日本」は変われるのだろうか？

私達のグループで時々出る話題なのですが、「日本の歴史って2つあるのかな～?!」と冗談半分、本気半分で困惑されている方がいます。

その原因は、高井さんがお話しする「日本・東アジア150年の歴史」が、あまりにも世論と真逆で価値観がぐるっとひっくり返ってしまうのです。中には、その痛みを受け入れられない方もいらっ

しゃいます。しかし、民主主義の立場から史実を照らし合わせると、全てが結びつき、これまで感じていた矛盾がスッと晴れてゆきます。

また「西欧の世界支配500年の歴史」を見れば、「専制 対 民主主義」の戦いがいかに偽りの正義であるかを高井さんは指摘しています。

今、日本では憲法を変えることなく、民主主義の名目で国家主義に成り変わる政治が推し進められています。そんな中、世界は変わっています。

国連は最初60か国で始まりましたが、その後、植民地支配下の国々が独立して今では190を超える国で構成されています。三分の二は、植民地にされていた国で構成されているのです。ロシアの経済制裁に多くの国が参加しないことから、世界の変化が見て取れます。

私達「日本」も本来あるべき姿に変わってゆきましょう。

その向かうべき道筋はすでにあるのですから！

(23.3.28)

#### 【日本国憲法前文】

政府の行為によって再び戦争の惨禍が起こることのないようにすることを決意し、ここに主権が国民に存することを宣言し、この憲法を確定する。



## 23・1・28 高井弘之さんの横浜講演会を開催して

「ストップ秘密保護法かながわ」共同代表 中西綾子

\*\*\*\*\*



私は辺野古土砂全協が1月22日に開催されたリモート学習会に参加させていただき、28日には講師の高井弘之さんを横浜にお招きし、二つの会

(ストップ秘密保護法かながわ、共同行動のためのかながわアクション：高梨晃嘉代表)の共催で「東アジアで戦争を呼ぶのは誰か～中国包囲網・琉球弧での日米戦争計画～」と題した講演会を開催致しました。講演会を前にメンバーはブックレットの輪読をして講演会に備えました。

今、日本は米軍と自衛隊が一体になり、中国本土を攻撃することを想定した新型ミサイルを日本全土に配備する、戦争準備とも言えるような大変な事態が進行しているにも関わらず、市民の関心の無さを街宣する度に思い知らされます。

中高年の男性たちからは「中国が攻めてきたらどうする!」、ウクライナ戦争以降は女性の間からも「平和は賛成、でも軍備は大事!」と投げられます。今、多くの市民がもやもやとした得体のしれぬ恐怖感は何なんだとの思いからか、チラシの受け取りが少し良くなってきているようにも感じます。

今回の高井さんのお話の中に、マスメディアに洗脳されている「中国脅威論」をかざす市民と話し合う手がかりとなる文言を沢山戴きました。

まず、「中国脅威論」に対しては、中国は日本を攻撃する理由もメリットもなく兆候も気配もない、逆に、米日が中国への攻撃態勢・軍事包囲網を着々と構築し、東アジアにおける戦争の危機を作り出していること。

その中で私たちにとっての「安全」とは何か? 「国家の安全保障」対「民衆の安全保障」、つまり「国を守ることと民衆を守ることとは対の関係に

ある、対立的な関係にある」こと。ウクライナを見ればわかるように、国家の主権を守るためには市民の生命、財産など全てが犠牲になる。国家の安全保障のために増税すればするほど社会福祉が削られるように対の関係にあること。

では、どのようにして戦争への危機を防いでいくのか。まずは国家と市民の関係を分ける事が必要。米中対立があってもそれは国家の対立であって、市民の対立ではない。東アジアでは市民の反戦のネットワークの蓄積が沢山ある。沖縄では「台湾との対話プロジェクト」が始まった。日本は欧米列強と150年間アジアを侵略したことを総括して、アジアの人々と共生するよう方向転換すべきである

高井さんも触れられましたが、今、ここ横浜は、沖縄と同じように戦場にさせられようとしています。横浜港にある米軍基地・横浜ノースドックに今春から米軍揚陸艇部隊280名・13隻の部隊が常駐します。国会の審議は一切なく、日米首脳会談と2+2会議での突然の決定でした。「台湾有事」を前提に沖縄・南西諸島と横浜港を結び付け、横浜港を沖縄・南西諸島での戦闘を支援するための前線基地・出撃基地とするものです。

会場の定員90名を越える参加者から寄せられた沢山の感想文には、大変有意義な講演だったことが記されていました。(2023.4.2)



# 新「生物多様性国家戦略 2023-2030」に照らせば

## 辺野古埋立ては中止しかない！

土砂全協顧問 湯浅一郎

### 新「生物多様性国家戦略 2023-2030」が 閣議決定された

2023年3月31日、日本政府は、「生物多様性国家戦略 2023-2030-ネーチャーポジティブ実現に向けたロードマップ」(以下、「新戦略」)を閣議決定した。重要なことは「今までどおりから脱却」し、「社会、経済、政治、技術など横断的な社会変革」を目指すという基本理念を掲げていることである。その具体化のために2030年までに「陸と海の30%以上を保護区にする(30by30)」など25の行動目標が盛り込まれた。

「新戦略」の背景は、2022年12月19日、モントリオール(カナダ)で開かれた生物多様性条約第15回締約国会議(COP15)が、2050年までの長期ビジョン「自然と共生する世界」を掲げ、そのための行動計画として採択した2030年までに生物多様性を反転させるための「昆明(クンミン)・モントリオール世界生物多様性枠組」(=ポスト愛知目標)である。枠組みは4つのゴールと「陸と海の少なくとも30%を保護区にする(30by30)」など23のターゲットで構成される。

同戦略(案)は1月30日に環境省のHPに掲載され、2月28日までパブコメが行われ、土砂協も意見書(18~19頁資料参照)を提出した。3月13日に開かれた次期生物多様性国家戦略第7回小委員会、パブコメで出た意見への対応などが報告、議論された。その結果、土砂全協が提出した意見は、多くは無視されたものの、いくつかが採用されたことがわかった。

### 「陸域及び海域の30%以上を保護地域」にするのならば、 辺野古・大浦湾埋立ては中止が当然

新戦略の「第1章 生態系の健全性の回復」では6項目の行動目標があるが、初めの3つが重要である。その第1が、行動目標1-1「陸域及び海域の30%以上を保護地域及びOECMにより保全するとともに、それら地域の管理の有効性を強化する」である。「30%以上」となっている箇所は、元々は「30%」であったが、土砂全協や環瀬戸内海会議の意見が取り入れられた結果である。基になった昆明・モントリオール枠組みのターゲット3,2が「少なくとも(at least)30%」になっているので当然ではあるが、それなりに大きな意味がある。これを実現する最も具体的な方法は、環境省が2016年に抽出している「既存の『生物多様性の観点から重要度の高い海域』の沿岸域270海域をすべて保護区にする」ことである。「今までどおりから脱却」するのならばあって然るべき方針である。

第2は、行動目標1-2「土地利用及び海域利用による生物多様性への負荷を軽減することで生態系の劣化を防ぐとともに、既に劣化した生態系の30%以上の再生を進め、生態系ネットワーク形成に資する施策を実施する」である。この「30%以上」にも我々の意見が反映されている。この項目は、例えば辺野古側の既に護岸ができ、埋め立て土砂が投入されている場所についても、護岸に穴をあけ、潮の満ち引きで海水が出入りできるようにする「磯浜復元」に取り組むことも可能である。



更に第3として、行動目標1-3「汚染の削減（生物多様性への影響を減らすことを目的として排出の管理を行い、環境容量を考慮した適正な水準とする）や、侵略的外来種による負の影響の防止・削減（侵略的外来種の定着率を50%削減等）に資する施策を実施する」は、外来種による負の影響の防止・削減すべく「侵略的外来種の定着率を50%削減」と厳しい目標となっている。

### 新戦略は生物多様性基本法 第12条第2項に沿って 防衛省の事業にも適用される

また土砂全協の意見書では、「本戦略には法的拘束力がないため、国の事業についてさえ、ほとんど歯止めがない。そこで戦略は、事業官庁（国土交通省、経済産業省、防衛省など）を含め国のすべての事業に適用されることを確認する内容が盛り込まれる必要がある」と指摘した。これに対し環境省は、「生物多様性基本法第12条第2項において、『環境基本計画及び生物多様性国家戦略以外の国の計画は、生物の多様性の保全及び持続可能な利用に関しては、生物多様性国家戦略を基本とするものとする』と定めており、他省庁の施策についても本戦略の主旨に沿うものとなるよう、今後も関係省庁間で連携を進めてまいります」と応えた。

従って、防衛省の辺野古新基地建設の埋め立て事業の対象海域は、ジュゴンやウミガメの生息に深く関わり、多様なサンゴが生息し、2019年にはホープ・スペース（希望の海）に認定された国際的にも貴重な生物多様性を残す場である。その海を根こそぎ消滅させる行為が本戦略に抵触することは自明である。

新たな国際目標である「昆明・モンリオール生物多様性枠組み」に沿って日本の生物多様性国家戦略が閣議決定されたことには大きな意義がある。政府の事業のすべてが、その戦略に

照らして妥当性が吟味されねばならない。防衛省の辺野古・大浦湾埋め立てと本戦略との矛盾は、今まで以上に明らかである。全国の市民から「おかしいのではないか」という声が普通に出てくる条件が整った。まずは沖縄県がこの点を認識し、県民や全国に向けて意義を訴えていくことが始まることを期待したい。そのためにも土砂全協は先頭に立って、「陸域及び海域の30%以上を保護地域」にするのであれば、辺野古・大浦湾埋め立ては中止が当然との訴えを強めていかねばならない。 (23. 4. 7)



上図は2016年4月22日、環境省が公表した「生物多様性の観点から重要な海域」48-沖縄本島～沖縄本島及び一部離島の周辺海域は、辺野古・大浦湾をはじめとして全て「重要海域」となっている。

埋立てや自衛隊基地建設など、生物多様性条約の理念・目標に反する行為であることは明白であろう。



辺野古土砂全協は2月28日、政府が実施した「次期生物多様性国家戦略（案）」についてのパブリックコメントに、以下の意見（全文）を提出しました。

## 「次期生物多様性国家戦略（案）」に対する意見

団体名 辺野古土砂搬出反対全国協議会

### ● 意見1

1-1 該当箇所 3頁29行目。【生物多様性国家戦略の位置づけと役割】

**意見内容** 「「2030年ネイチャーポジティブ」は、政府の取組だけでは達成できない。」の「政府の取組」の前に『まず政府が、全省庁を上げて積極的に取り組むことは当然のことであるが、同時に』を挿入する。

1-2 該当箇所 40頁5～8行目。（3）事業者としての国・地方公共団体の率先垂範

**意見内容** 7～8行目「生物多様性・自然資本への負荷を削減するよう取組を進める。」の後に『国は、海面埋立て、山・海の砂利採取など生物多様性を消滅させることが明白な事業については、本戦略の精神に照らして事業そのものを再検討する。』を加える。

**理由** 本戦略には法的拘束力がないため、第5次戦略までは国の事業についてさえ、ほとんど歯止めがなかった。そこで本戦略は全省庁のすべての事業に適用されることを明記すべきである。例えば我々が苦慮している防衛省の辺野古新基地建設の辺野古・大浦湾埋立て事業は、ジュゴンやウミガメの生息に深く関わり、多様なサンゴが生息する国際的にも貴重な生物多様性を根こそぎ消滅させる行為である。本戦略に抵触することは自明であるが、防衛省は一顧だにせず埋立てを強行している。「今までどおりでない」ために、この矛盾した構図を変えることが戦略に明記されるべきである。

### ● 意見2 該当箇所 31頁11～12行目。（2）陸域及び海域の利用・管理における生物多様性への負荷軽減。5）沿岸・海洋。

**意見内容** 11行目「水質浄化及び生物の生息・生育空間の確保の観点から、・・・」の前に、『陸と海の境界域である海岸線付近の埋立て事業は、生物多様性の高い干潟・浅瀬をつぶす行為であり、この際、禁止すべきである。』を挿入する。

**理由** 「今までどおり」でない、「社会変革」をめざすのであれば、それを象徴する提案があるべきである。一例として海岸埋立て事業は、生物多様性の高い干潟・浅瀬をつぶす行為であり、この際、禁止すべきである。さらに海面埋め立てや山・海砂採取事業の根拠となる公有水面埋立て法、砂利採取法などの諸法律の改正も視野に入れるべきである。

### ● 意見3

3-1 該当箇所 64頁20行目。

**意見内容** 行動目標1-1「陸域及び海域の30%を保護地域」で、「30%」の前に「少なくとも」を挿入する。

3-2 該当箇所 71 頁 20 行目。

**意見内容** 行動目標 1-2 「既に劣化した生態系の 30%の再生を進め、」で、「30%」の前に「少なくとも」を挿入する。

**理由** 上記 2 点は、昆明モントリオール生物多様性枠組みのターゲット 3, 2 を基礎とするが、両者ともに「少なくとも」がある。従って国際合意に従い「少なくとも」を挿入すべきである。

● **意見 4** 該当箇所 71 頁 6-9 行。「1-1-16 海洋保護区及び OECM 設定の基盤となる生物多様性情報の整理」

**意見内容** 7 行目「30 by 30 目標の達成を含む海洋生物多様性の保全の推進と持続可能な利用に資するため」の後の 8-9 行を、『既存の「生物多様性の観点から重要度の高い海域」をすべて保護区にする方向で検討する』に差し替える。

**理由** 意見 3-1 に関連するが、「海域の少なくとも 30%を保全する」という高い目標を実現するために、既に抽出している「生物多様性の観点から重要度の高い海域」の沿岸域 273 海域をすべて保護区にすることはリーズナブルである。それにより沖縄県のほぼ全ての沿岸が保護区の対象となり、「今までどおり」でない象徴となる。

● **意見 5** 該当箇所 17 頁 12 行目。3) 第 3 の危機（人間により持ち込まれたものによる危機）

**意見内容** 12 行目「増大している」の後ろに、『また山砂や海砂の県外や他島からの大量移動に伴う外来生物（アルゼンチンアリ、ゴケグモ類、オオキンケイギクなど）の侵入が懸念され、それを防止する措置の強化が求められる』を挿入する。

**理由** 例えば辺野古埋め立てに必要な土砂や海砂を、鹿児島県、福岡県や沖縄県内の他島から沖縄島に持ち込む計画があるが、これに伴い既存の特定外来種が沖縄島に侵入し、沖縄島固有の生態系をかく乱する恐れがあるので、これへの対策が必要である。

# あらたな戦前にさせない! 守ろう平和といのちとくらし 2023憲法大集会

**5・3** **水・休**  
開演 11:00/パレード開始 14:30  
**有明防災公園**  
東京臨海広域防災公園

主催：平和といのちと人権を！5・3 憲法集会実行委員会  
info@kenpou2020.jp  
https://kenpou2020.jp/information/2023/

共催：戦争させない・9 条壊すな！総がかり行動実行委員会  
9 条改憲 NO！全国市民アクション (info@kaikenno.com)  
戦争をさせない 1000 人委員会 (03-3526-2920)  
憲法 9 条を壊すな！実行委員会 (03-3221-4668)  
戦争する国づくりストップ！憲法を守り・いかす共同センター (03-5842-5611)  
9 条の会 (03-3221-5075)



Q 検索：憲法集会 2023

《有明防災公園へのアクセス》 東京都江東区 3 丁目 8 番 3 5 号  
東京臨海高速鉄道りんかい線「国際展示場」駅より徒歩 4 分  
ゆりかもめ東京臨海新交通りんかい線「有明」駅より徒歩 2 分

「辺野古」「安和・塩川」「うるま市のミサイル発射基地建設現場」「糸満・八重瀬の土砂搬出予定地」

たたかひの現場と戦争の危機を、広く共有しよう

## 土砂全協第10回定期総会in沖縄にご参加を

2023年6月3(土)～5日(月) 第10回総会は4日、うるま市で開催

第10回総会は、沖縄に強いられている辺野古新基地建設、うるま市勝連半島のミサイル基地建設、南部土砂搬出予定地など、たたかひの現場を巡ります。ぜひご参加下さい。

### ☆☆☆ 総会の主なプログラム ☆☆☆☆☆☆☆

#### ●1日目・6月3日(土)

09:00…沖縄県庁前広場に集合、「土砂全協総会バス」で辺野古に出発。

11:00…辺野古ゲート前「県民集会」参加

12:30…《辺野古班》美謝川切替工事、辺野古弾薬庫新ゲート工事現場視察

《安和・塩川班》総会バスで、安和・塩川に～土砂搬出反対運動の現地視察

14:00…《安和・塩川班》辺野古テント前に移動

14:30頃 辺野古テント前で《辺野古班》と合流

うるま市の「春日観光ホテル」に移動

18:00…「夕食交流会」(会場：ホテル内)

#### ●2日目・6月4日(日)

09:30…第10回定期総会(会場：ホテル会議室)

13:00…総会バスで、勝連半島のミサイル発射基地建設現場視察。現地集会に参加

#### ●3日目・6月5日(月)

08:30…「総会バス」で南部土砂搬出予定地視察

15:00…「早組」那覇空港到着・解散。

18:00…「遅組」県庁前広場到着・解散。

申込期間…4月6日(木)～5月5日(金)

申込先…kanpanera888k@gmail.com (八記)

### 写真展・講演会

「沖縄を二度と戦場にするな」

ミサイル基地化する琉球弧

5月20日(土)

松山市民会館小ホール

写真展 10:00～17:00 入場無料

講演会 13:30～ 参加費：800円

講師 照屋寛之さん(沖縄国際大学名誉教授・

ミサイル配備から命を守るうるま市民の会共同代表)

主催 ノーモア沖縄戦・えひめの会

共催 愛媛・沖縄ゆいまーる 市民の広場

問合せ先 090-3783-8332(阿部)

nmo.ehime@gmail.com

## 2023年度会費のお願い

会費 団体：10,000円

個人：3,000円

辺野古土砂全協は皆様のご支援ご協力に支えられ早や8年。間もなく9年目に突入します。

2023年度団体・個人会費のお納めをお願いします。カンパ熱烈大歓迎!

— 郵便振替口座 —

番号 01750-8-144158

名義 辺野古土砂搬出反対  
全国連絡協議会

### 《辺野古土砂搬出反対全国協議会ニュース つながる力24号》 2023年4月20日

発行責任者…全国連絡協議会共同代表 阿部悦子(環瀬戸内海会議) hibi\_etsuko@yahoo.co.jp

大谷正穂(山口のこえ) masaho1954@gmail.com

編集…松本 宣崇(環瀬戸内海会議)

nmatchan@ms8.megaegg.ne.jp

HPアドレス…<http://stophenoko.html.xdomain.jp/>

事務局…〒700-0973 岡山市北区下中野 318-114 松本方 Tel・fax 086-243-2927

連絡先…〒794-0026 愛媛県今治市別宮町9-7-4 阿部悦子 Tel 090-3783-8332

振込先…郵便振替 番号 01750-8-144158 名義 辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会